

日病薬発第 2019-192 号
令和 2 年 2 月 21 日

都道府県病院薬剤師会 会長 殿

一般社団法人 日本病院薬剤師会
会 長 木 平 健



オラパリブに係るプライバシーに配慮した
指導の実施について（お願い）

平素より、本会の活動にご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、患者に対する指導については、プライバシーに配慮して実施することが求められているところです。

先般、患者と各領域の専門家で構成された団体ISPACOS（発起人代表：順天堂大学医学部乳腺腫瘍学 齊藤教授）より、本会に対し、2019年6月30日に開催した第2回ISPACOSシンポジウム「つながることから始まる患者にやさしいがん医療サイエンス」において、患者からの指摘を受け、特にオラパリブに関しては、他の抗がん剤以上に特別な配慮が必要な薬であることについて、周知を求める要望がありました（別添）。

近年、遺伝子疾患治療を目的とした医薬品も多く開発・流通されている中、プライバシーに配慮した指導は、より一層重要になってきています。

貴会会員におかれましては、日頃よりプライバシーに配慮した指導を実施されていることとは存じますが、改めて、貴会会員に対しご周知いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



一般社団法人日本病院薬剤師会
会長 木平 健治 殿

令和元年 11 月 6 日

ISPACOS 代表 齊藤 光江 (医師)
コアスタッフ代表 小茂田 昌代 (薬剤師)

オラパリブに関する服薬指導時の配慮について (お願い)

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ISPACOS (International Society of Patient-Centered Oncology Science) は、患者と各領域の専門家が一堂に会し、情報の共有から課題に向けての協働を目指し、2018 年に設立 (発起人代表: 順天堂医学部乳腺腫瘍学教授 齊藤光江) した団体です。

2019 年 6 月 30 日に開催しました第 2 回 ISPACOS シンポジウム「つながることから始まる患者にやさしいがん医療サイエンス」において、オラパリブの服薬指導について、患者さんから以下のような指摘がありました。

- ・オラパリブの説明を他の人がいる前でされてしまった
- ・自分が遺伝性の病気であることが他人に知られてしまった
- ・遺伝情報等の取り扱いについて、薬剤師に適切な配慮を求めたい

オラパリブは *BRCA* 遺伝子変異陽性の乳がんや卵巣がんを使用される薬で、*BRCA* 遺伝子変異陽性の乳がんや卵巣がんは遺伝すると言われております。*BRCA1* 遺伝子変異をもつ乳がんの生涯発症リスクは 65~74%、卵巣がんについては 39~46%とされています。したがって、この薬をプライバシーが保たれない場で説明するという事は、「乳がんや卵巣がんになりやすい家系である」ことを公開することにつながります。そして、その患者さんのみならず、家族への差別にもつながりかねません。

薬剤師が適切な配慮をせずに薬の説明をしてしまうことのないように、特にオラパリブに関しては、他の抗がん剤以上に特別な配慮が必要な薬であることを、貴会会員にご周知頂くようお願い申し上げます。

また、内服の抗がん剤が院外処方される機会も増えていきますので、薬薬連携により保険薬局との情報共有を進めるよう、合わせてご周知の程お願い申し上げます。なお、日本薬剤師会にも別添の要望書を提出させていただいたことを申し添えます。

薬剤師は医療チームの科学者であり、医薬品の科学的特性について、患者の視点に立ち、患者、医療者に情報提供できる専門性の確立が求められております。貴学会において、薬剤師の生涯研修をさらに強化していただけますよう切望致します。

敬具